

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成28年6月2日 (2016.6.2)

【公開番号】特開2015-46240(P2015-46240A)

【公開日】平成27年3月12日 (2015.3.12)

【年通号数】公開・登録公報2015-016

【出願番号】特願2013-175352(P2013-175352)

【国際特許分類】

H 0 1 R 27/00 (2006.01)

H 0 1 R 13/64 (2006.01)

H 0 1 R 24/60 (2011.01)

H 0 1 R 13/648 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 27/00 M

H 0 1 R 13/64

H 0 1 R 24/60

H 0 1 R 13/648

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月8日 (2016.4.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

請求項 4 又は請求項 5 記載の U S B レセプタクルであって、
前記ピン保持部は、前記ピッチ方向と直交する垂直面内に延びる溝であり、
前記被保持部と前記パネ部とは、前記垂直面内に延びており、且つ、前記ピッチ方向において前記ピン保持部よりもサイズの小さいものであり、
前記検知ピンには、前記被保持部を前記ピン保持部の内壁に押し付けるダボが形成されている

U S B レセプタクル。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

また、本発明は、第 6 の U S B レセプタクルとして、第 4 又は第 5 の U S B レセプタクルであって、

前記ピン保持部は、前記ピッチ方向と直交する垂直面内に延びる溝であり、
前記被保持部と前記パネ部とは、前記垂直面内に延びており、且つ、前記ピッチ方向において前記ピン保持部よりもサイズの小さいものであり、

前記検知ピンには、前記被保持部を前記ピン保持部の内壁に押し付けるダボが形成されている

U S B レセプタクルを提供する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

【図 1】本発明の実施の形態による U S B レセプタクルを示す斜視図である。ここで、U S B レセプタクルは回路基板に取り付けられている。

【図 2】図 1 の U S B レセプタクルを示す斜視図である。

【図 3】図 2 の U S B レセプタクルを示す上面図である。

【図 4】図 2 の U S B レセプタクルを示す正面図である。

【図 5】図 2 の U S B レセプタクルを示す側面図である。

【図 6】図 2 の U S B レセプタクルと嵌合可能な標準 U S B プラグを示す斜視図である。

【図 7】図 2 の U S B レセプタクルと嵌合可能な特殊 U S B プラグの特殊シェルの近傍を示す斜視図である。

【図 8】図 7 の特殊 U S B プラグの変形例を示す斜視図である。

【図 9】図 2 の U S B レセプタクルのコネクタ本体を示す斜視図である。

【図 1 0】図 9 のコネクタ本体を示す斜視図である。ここで、第 1 検知ピン及び第 2 検知ピンはコネクタ本体から分離されている。

【図 1 1】図 9 のコネクタ本体を示す上面図である。

【図 1 2】図 1 1 のコネクタ本体の第 1 検知ピンの近傍（図 1 1 において破線 A で囲まれた部分）を示す上面図である。

【図 1 3】図 9 のコネクタ本体を示す正面図である。

【図 1 4】図 1 3 のコネクタ本体の第 1 検知ピンの近傍（図 1 3 において破線 B で囲まれた部分）を示す正面図である。

【図 1 5】図 9 のコネクタ本体を示す側面図である。

【図 1 6】図 9 のコネクタ本体の第 1 検知ピンを示す斜視図である。

【図 1 7】図 1 6 の第 1 検知ピンを示す他の斜視図である。

【図 1 8】図 1 6 の第 1 検知ピンを示す上面図である。

【図 1 9】図 2 の U S B レセプタクルと図 7 の特殊 U S B プラグとを示す側面図である。ここで、U S B レセプタクル及び特殊 U S B プラグは未嵌合状態にある。

【図 2 0】図 1 9 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグとを示す側面図である。ここで、U S B レセプタクル及び特殊 U S B プラグは嵌合状態にある。

【図 2 1】図 2 0 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグの特殊シェルの近傍を示す側面図である。ここで、U S B レセプタクルのシェルの近傍を描画していない。

【図 2 2】図 2 1 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグの特殊シェルの近傍を示す斜視図である。ここで、U S B レセプタクル及び特殊 U S B プラグは未嵌合状態にある。

【図 2 3】図 2 2 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグの特殊シェルの近傍を示す上面図である。ここで、特殊シェルの近傍に覆われた標準保持部材の輪郭と識別部の側面の輪郭とを破線で描画している。

【図 2 4】図 2 1 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグの特殊シェルの近傍を示す斜視図である。

【図 2 5】図 2 4 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグの特殊シェルの近傍を示す上面図である。ここで、特殊シェルの一部を描画していない。

【図 2 6】図 2 5 の U S B レセプタクルの第 2 検知ピンの近傍（図 2 5 において破線 C で囲まれた部分）を示す上面図である。

【図 2 7】特許文献 1 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグとを示す斜視図である。ここで、U S B レセプタクル及び特殊 U S B プラグは未嵌合状態にある。

【図 2 8】特許文献 1 の U S B レセプタクルと特殊 U S B プラグとを示す斜視図である。ここで、U S B レセプタクル及び特殊 U S B プラグは嵌合途中状態にある。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

ピン保持部 1 6 2 は、X 方向と直交する方向に延びる溝である。詳しくは、ピン保持部 1 6 2 は、X 方向と直交する垂直面（Y Z 平面）内を延びつつ、Z 方向において側部 1 6 0を部分的に貫通している。即ち、ピン保持部 1 6 2 の一部は、保持部材 1 5 0 の底面まで延びている。